

RFMD ニュース



rfmd.com

会社連絡先:

RF Micro Devices Inc.
Brian K. Cockman, Public Relations Specialist
7628 Thorndike Road
Greensboro, NC 27409-9421, USA
電話: +1 (336) 678-8945
bcockman@rfmd.com

RFMD 社、サムスン電子のスタイリッシュな
スライド式携帯電話 E250 向けに EDGE パワーアンプを供給

EDGE 市場におけるサムスン電子の成長予測を裏で支える
大信号ポーラ変調 EDGE パワーアンプによる RFMD 社のリーダーシップ

ノースカロライナ州グリーンズボロ、2007年5月 21日: 移動通信駆動用各種アプリケーション向けの高性能無線システム/ソリューションを設計、製造し業界をリードするRFMD社(ナスダック:RFMD)は本日、サムスン電子のE250端末に同社の4バンドEDGEリニア・パワーアンプ・モジュール、RF3159が採用されていることを明らかにした。

サムスン電子のE250は最高レベルの性能と最新のマルチメディア機能を備えたコンパクトでスタイリッシュな携帯端末。このスライド式携帯電話は、VGAカメラ、MP3プレーヤ、「進化した音楽配信(A2DP)」ステレオ Bluetooth® 機能、鮮明な2インチ・カラー画面などが特長のデザイン性に優れた端末で、現在サムスン社のベストセラー端末の1つ。

「我々は、スタイリッシュで人気の高いサムスン社のE250端末にRF3159が採用されたことにたいへん満足しています。サムスン電子をはじめ主要な携帯電話メーカーから当社製リニアEDGEパワーアンプの採用が続いていますが、これは当社パワーアンプの効率とリニアリティが特に優れているためです。当社は将来のEDGE/3Gマルチモード端末でもサムスン社向けに業界最先端のEDGEパワーアンプを供給していきたいと考えています。」とRFMD社のコンポーネント事業部長コンラッド・アルバリノ氏は語る。

RF3159はリニアリティに優れたGSM/GPRS/EDGE用の4バンド・パワーアンプで、NXPセミコンダクタ社やインフィニオンテクノロジーズ社が採用しているような、リニア構成の送信系を持つEDGEトランシーバ用に設計されている。デュアルモードGSM/GPRS/EDGE携帯端末の送信系最終増幅段用として各種の利得と直線性の組み合わせが用意されているため、携帯端末メーカーはリニアリティ、効率、出力電力等の様々な設計に合わせて送信系の最適化が可能で、完全4バンド対応のRF3159は824MHz~915MHzと1710MHz~1910MHzの周波数帯で動作する。

RFMD社はリニアEDGEパワーアンプおよび大信号ポーラ変調(LSPM)用EDGEパワーアンプの最大のサプライヤー。同社では今年中に、リニアEDGEパワーアンプ・モジュールを採用した主要EDGE端末が他にも登場すると予想している。さらに同社はEDGEフロントエンドの新製品としてRF3161 LSPM EDGE PAモジュールとRF3203リニアEDGE送信モジュール(TxM)のサンプル提供も始めており、業界をリードするEDGE製品ラインを採用した各メーカーの設計が盛んになることを期待している。

RFMD 社について

RF Micro Devices, Inc. RFMD 社(NASDAQ RFMD)は移動通信の主要アプリケーション向けに高性能な無線システム/ソリューションの設計、製造を行う会社で、この業界のグローバル・リーダー。RFMD 社のパワーアンプ、送信モジュール、携帯電話用トランシーバ、およびシステム・オン・チップ(SOC)ソリューションは現在および次世代の携帯端末、基地局、無線ローカルエリアネットワーク(WLAN)、無線パーソナルエリアネットワーク(WPAN)、全地球測位システム(GPS)などの最新機能をサポートし、全世界的なモビリティの向上と接続性の拡大に寄与するもの。最先端の半導体技術による幅広い製品ラインと無線システムの豊富な経験で定評のある RFMD 社は、現在および将来の市場要求を満たす最新無線機能のサプライヤーとして、世界中の主要な移動通信機器メーカーから選ばれている。

ノースカロライナ州グリーンズボロに本社を置く RFMD 社は ISO 9001 および ISO 14001 の認証取得済みのメーカーで、世界各地にエンジニアリング、設計、販売、サービスの拠点を持つ。RFMD 社は RFMD 銘柄で米ナスダックグローバルセレクト市場に上場しています。なお詳しい情報は RFMD 社のホームページ、www.rfmd.com に紹介されている。

このプレス・リリースには、1995 年米国私募証券訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act)がその免責条項として定める「将来的な予測」が含まれています。この「将来的な予測」には当社の計画、目的、説明、主張などについて、またはそれ以外についての記述が含まれていますが、これらの記述は歴史的な事実ではなく、通常は「可能」、「必要」、「予測」、「期待」、「予定」、「計画」、「推測」、「確信」、「推定」、「予想」、「可能性」、「継続」などの用語や類似の用語とともに使用されています。またこれらとは別の表現で「将来的な予測」が記述される場合もあります。この文書に含まれている「将来的な予測」の記述は現時点における経営陣の判断や期待を表していますが、実際の成果や出来事、業績などはこれら記述で表現されたり暗示されたりした内容とは実質的に異なる場合もあります。当社は米国連邦証券取引法により要求される場合を除き、これら「将来的な予測」の記述内容を改訂したり、あるいはその記述の改訂を公表したりする意図を持っていません。RF マイクロデバイセス社の事業には多くのリスクや不確実性が内在しており、その内容には四半期毎の経営成果の変動、無線関連市場の発展や成長率、ウェハ製造施設、分子線エピタキシー施設、組み立て施設、試験、テープ、リール施設など各種製造施設の稼働に関するリスク、熟練技術者や開発リーダーを採用・確保する当社の能力、生産歩留りの変動、革新的技術によりコストを削減し正味利益率を改善する能力、新製品を市場に投入する能力、顧客の在庫センターを通して行う委託販売への依存性、製品需要に即応したタイムリーな生産能力の調整を行う能力、限られた顧客への依存性、サードパーティへの依存性などが含まれています。上記以外にも含むこれらリスクや不確実性については米国証券取引委員会の様式 10-K に従った RF マイクロデバイセス社の最新アニュアルレポートの中で説明されていますが、このような不確実性のため、これら記述の表現や暗示による内容と実際の成果や出来事、業績とは実質的に異なる場合があります。

RF MICRO DEVICES® および RFMD® は RFMD, LLC の商標である。その他の商品名、商標、登録商標はそれぞれの所有者の財産である。

###